

2 6 3 - 8 2 4
平成18年8月18日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県農政水産部長

平成18年度病害虫発生予察警報第1号について

平成18年度病害虫発生予察警報第1号を発表したので送付します。

平成18年度病害虫発生予察警報第1号

平成18年8月18日
宮 崎 県

病害虫名 トビイロウンカ
作物名 普通期水稻

1. 発生地域 県内全域
2. 発生時期 -
3. 発生程度 多
4. 警報発令の根拠

- 1) 県では注意報第4号(平成18年7月25日付け)を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を指導しているところであるが、8月中旬に行った巡回調査の結果、先月に比べ発生地域が拡大し発生程度も高まっており、平年に比べ、多い発生状況である。
2) 8月中旬の巡回調査におけるトビイロウンカの発生面積率52.4%(平成9.3% 前年28.6%)、株当たり虫数0.06頭(平成0.01頭 前年0.04頭)は、過去10年間でもっとも多い発生であり(図1参照)、県内における短翅型雌成虫発生ほ場率は33.3%である。

また、北諸県地域で実施した追加調査の結果、短翅型雌成虫発生ほ場率は72.7%、要防除水準に達しているほ場率は27.3%に達している。

(参考) 8月の要防除水準 短翅型雌成虫 株当たり0.2頭

- 3) 本県へのトビイロウンカの主要飛来は7月5~6日と考えられるが、その後も少数ながら継続的な飛来が確認されている。(表1)
4) 向こう3ヶ月の長期予報では、8月の気温は平年より高い、9・10月の気温は平年並か高いと見込まれており、本種の増殖に好適な状況が続くと考えられる。

(鹿児島地方气象台 7/25発表)

5. 防除上の注意

- 1) 防除適期は、幼虫期前半であるが、地域やほ場によって本種の生育ステージや発生量のばらつきがあるので、防除を実施する際は、ほ場を観察してから行う。
(図2参照)
2) 長期残効型箱施薬剤を使用したほ場や、既に本田防除を行ったほ場においても、これからの発生状況に注意し、適切な防除を行う。
3) 使用する薬剤の選択の際は、薬剤の特性を十分理解し、液剤や粉剤は本種が生息する株元まで十分到達するよう散布する。
4) 防除薬剤等その他の詳細については、宮崎県病害虫防除・肥料検査センター、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。
5) ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努める。

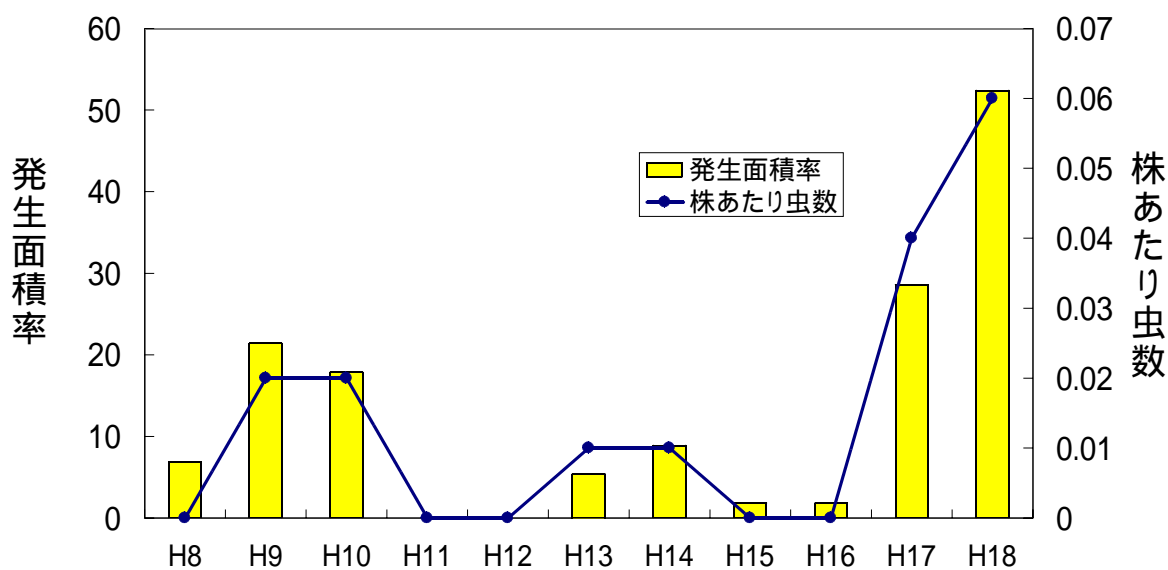


図1 年次別発生面積率と株あたり虫数の推移
(8月中旬調査)

表1 トビロウカの飛来状況

| | 都 城 | | | 国 富 | | | 佐土原(農試) | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|
| | 本 年 | 平 年 | 前 年 | 本 年 | 平 年 | 前 年 | 本 年 | 平 年 | 前 年 |
| 6月6半旬 | 0 | 0.7 | 0 | 0 | 0.1 | 0 | 0 | 0.6 | 0 |
| 7月1半旬 | 45 | 1.0 | 0 | 10 | 1.3 | 0 | 7 | 0.9 | 0 |
| 2半旬 | 23 | 0.9 | 5 | 2 | 0.7 | 0 | 3 | 0.3 | 0 |
| 3半旬 | 3 | 0.8 | 4 | 0 | 2.4 | 0 | 0 | 0.6 | 2 |
| 4半旬 | 0 | 0.3 | 1 | 1 | 0.7 | 0 | 0 | 0.7 | 0 |
| 5半旬 | 1 | 0.0 | 0 | 1 | 0.1 | 0 | 1 | 0.5 | 0 |
| 6半旬 | 2 | 0.0 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 0 | 2.6 | 0 |
| 8月1半旬 | 1 | 1.1 | 0 | 0 | 0.0 | 0 | 2 | 0.1 | 2 |
| 2半旬 | 1 | 0.4 | 0 | 0 | 0.4 | 0 | 0 | 0.3 | 0 |
| 計 | 76 | 5.2 | 10 | 14 | 5.7 | 0 | 13 | 6.6 | 4 |

連絡先
宮崎県農政水産部営農支援課
生駒千加子、戸高隆
： 0 9 8 5 - 2 6 - 7 1 3 2
Fax： 0 9 8 5 - 2 6 - 7 3 2 5
E-mail： einoshien@pref.miyazaki.lg.jp